

解答

問一 強制的に行動が決められている、孤児院での時間。

問二 自分に染みついている孤児院での不自由で制限のある生活習慣が、祖母の家ではいつ何をしてもいいと言えるほど自由になったのに、かえって孤児院の生活の癖が抜けずとまどっているということ。

問三 切った西瓜のうち、どれが最も大きいかを一瞬のうちに見抜いてすばやくとった弟の行動を見て、孤児院でのきゅうくつな生活を想像して弟をかわいそうに思い、ここではおなかいっぱい食べて欲しいと思ったから。

問四 祖母の家に来て孤児院とは違う居心地の悪さを感じていらしていたが、夕飯を食べて一息ついたところで、気持ちも少し落ち着いてきた。そして、孤児院では個室はなかったので、祖母の家で自分の部屋を持つような気持ちになりたかったから。

問五 勇気を出して祖母の家に置いて下さいとお願いをして、祖母が考えておく和前向きな返事をしたときにはいた蜚が、叔父に反対されて祖母の家にいられないとわかった時にはいなくなったことから、祖母の家で暮らすという兄弟の希望を暗示している。

問六 自分たちを家に置くことに対する叔父の激しい反対を聞き、ここにはいられないと悟ったので、祖母のためにも孤児院に戻る覚悟をしつつ、引き取ろうとしてくれた祖母のやさしさにも感謝している。

問七 急ぎの用ということで、祖母と会わずに出て行けば、いつか自分たちに言わねばならない「帰ってほしい」という言葉を言わせてつらい思いをさせないですむと、今、自分のできる最大の思いやりを祖母に表したかったから。

問八 包丁

判断

規則

暮れ

演奏